

骨粗しょう症

骨粗しょう症は圧倒的に女性に多い病気です。閉経を迎える50歳前後から骨量が急激に減少し、60歳代では2人に1人、70歳以上になると10人に7人が骨粗鬆症といわれています。今回は骨粗しょう症について解説します。

骨粗しょう症の原因

骨は毎日作りかえられています。骨吸収といって、古い部分は吸収されて、骨形成によって新しい骨に置き換わります。骨吸収に対して骨形成が追いつかなくなると、骨粗しょう症になります。女性ホルモンであるエストロゲンは骨形成に関わっており、これが閉経により減少すると骨形成が低下して、骨粗しょう症になります。

骨粗しょう症になると骨がもろくなるために、くしゃみや布団の上げ下ろしなどの日常生活動作や、転倒した衝撃などで骨折を起こしやすくなります。特に骨折しやすいのは脊椎、大腿骨、手首です。



診断

骨粗しょう症の診断は、若年成人（20～44歳）の骨量の平均値（YAM(ヤム)値）との比較によって行います。骨量がYAM値の70%未満であれば骨粗しょう症、70～80%であれば骨量減少と判断されます。骨量がYAM値の80%未満の人は注意が必要です。

骨量の測定法

検査法	部位	方法
DXA法	腰椎、大腿骨など	2種類のX線をあてて骨密度を測定する。
MD法	第二中手骨	アルミのスケールと比較して骨密を測定する。

当院でもMD法による骨量測定が可能となりました。手のレントゲン写真を撮るだけなので非常に簡便です。検査費用は1割負担の方で140円、3割負担の方で420円です。ご希望の方は院長までご相談ください。



治療

骨粗しょう症を治療することにより、骨折を予防します。

活性型ビタミンD3

腸管からのカルシウムの吸収を助け、骨の代謝を調節する薬です。また、骨を壊す作用を持つホルモンを抑制する働きもあります。アルファロール®・ワンアルファ®、エディロール®

カルシトニン

骨を壊す破骨細胞を抑制することから、骨吸収抑制作用があります。骨粗しょう症による疼痛抑制効果があります。エルシトニン®、カルシトラン®

選択的エストロゲン受容体モジュレーター（SERM）

女性ホルモンであるエストロゲンは骨形成を促します。SERMは骨に対してはエストロゲンと同様の作用を持ちますが、乳腺や子宮に対しては作用を発揮しないという特徴があります。ビビアント®、エビスタ®

ビスフォスフォネート

骨吸収を強力に抑える働きがある薬剤です。骨量を増やし、大規模な臨床試験で骨折率を低下させることが証明されています。1日1回服用タイプ、週1回服用タイプ、月1回服用タイプ、月1回静脈注射タイプがあります。フォサマック®、ベネット®、ボノテオ®、ボンビバ® など

副甲状腺ホルモン

非常に強力な骨形成促進作用と骨折抑制作用を持ちます。骨折の危険性が非常に高い骨粗しょう症に決められた期間投与します。毎日もしくは週1回皮下注射する製剤があります。フォルテオ®、テリボン®

抗RANKLモノクローナル抗体

破骨細胞の成長を抑制し、最終的には骨の破壊を激減させることで骨密度を増やします。半年に1回皮下注射します。プラリア®

これらの薬剤を年齢や病状によって使い分けたり、併用したりします。